

イベントレポート 『2010 K耐久東海シリーズ 第5戦』

開催日 2010年11月21日(日)

9:30 決勝スタート 12:25 チェッカー

天候 晴れ

最高気温 19.4 (12時)

場所 スパ西浦モーターパーク

エントリー台数 32台

2010年11月21日(日)愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにおいて、2010K耐久/GT耐久東海シリーズの最終戦となる第5戦が行われた。

第3戦、第4戦と雨のレースとなったが、今回はそのうっぴんを晴らすような晴天。風もほとんどない絶好のレース日和となった。

今回は最終戦ということで、多くのチームが今回のポイントでシリーズ順位が大きく変わってくる状況。シリーズポイント争いも懸け、熱い戦いが繰り広げられた。



KNCクラス(軽NAのクローズドクラス)

今回は15台のエントリーとなったこのクラス。シリーズポイント争いはNo.236「コースコーションモータースポーツクラブ」が52点で頭一つリードしている。これを44点のNo.36「JKレーシングユーロトゥデイ」、41点のNo.99「モノコックボディ ミュートゥデイ」、38点のNo.23「プロジェクトF」の3チームが、逆転優勝の可能性を懸けて臨んだ。

予選

予選1番手となるタイムを叩き出したのは、No.23「カーケアオフィストゥデイ」でタイムは1'04.917。逆転優勝を狙い絶好のポジションを獲得する。

2位は前回準優勝を飾ったNo.50「ベストライフトゥデイ」でタイムは1'06.039をマーク。3位のNo.10「ぼんこつRTトゥデイ」は1'06.396、4位のNo.36「JKレーシングユーロトゥデイ」は1'06.397と、タイム差は僅か0.001秒。毎回ながら僅差の争いが随所で見られる。

以下、5位に1'06.980でNo.127「アンティスネコマルトゥデイ」、6位に1'07.105でNo.236「タカタCCMCトゥデイ」、7位に1'07.111でNo.99「モノコックボディーミュートゥデイ」と続く。

序盤

決勝スタートから約20分。3位からスタートのNo.10「ぼんこつRTトゥデイ」が45Rでマシントラブルによりストップ。その後レースに復帰はするものの、大きく順位を落としてしまう。

また、これとほぼ同時に、第2ハヤピンでスピンした車両にNo.99「モノコックボディーミュートゥデイ」が接触。No.99は大きなダメージを受けリタイヤとなってしまった。

上位陣が相次いで脱落していく序盤となったが、1時間経過時点での1位はNo.36「JKレーシングユーロトゥデイ」で25周をラップ。

1位から遅れることわずか6秒でNo.50「ベストライフトゥデイ」が2位につける。



3位のNo.23「カーケアオフィストゥデイ」は24Lap、4位と5位のNo.97「TSRトゥデイ」と、No.127「アンティスネコマルトゥデイ」は23Lapと、トップの射程圏内に複数の車両が位置する。

以下6位 No.236「タカタCCMCトゥデイ」、7位 No.51「オーシャンズセプトゥデイ」、8位 No.35「JKレーシングユーロービート」と続く。

終盤

2時間経過時点では、ピットインを先延ばししたNo.23「カーケアオフィストゥデイ」が68周で頭一つリードして1位に立つ。

2位にはNo.50「ベストライフトゥデイ」が64Lapで追いかけて、同一ラップの3位にはNo.236「タカタCCMCトゥデイ」が付ける。

また4位のNo.36「JKレーシングユーロートゥデイ」も63Lapと好位置をキープする。

以下5位にNo.127「アンティスネコマルトゥデイ」が61Lap、6位にNo.51「オーシャンズセプトゥデイ」が59Lapで続く。

また7位No.7「あんじょうトゥデイ」、8位No.97「TSRトゥデイ」、9位No.35「JKレーシングユーロービート」は58週の同一ラップでラスト1時間の戦いに突入する。

最終結果

レース終了11分前、No.23「カーケアオフィストゥデイ」とNo.50「ベストライフトゥデイ」が1コーナーで接触してコースアウト。この結果No.50はリタイヤとなり、No.23はラストでレースに復帰するものの義務ピット回数が不足し章典外の結果となってしまふ。

決勝ラストでまさかの上位陣の脱落により、見事1位を獲得したのは87周をラップしたNo.236「タカタCCMCトゥデイ」であった。ピットインタイミングの幸運もあったが、安定した走りで見事有終の美を飾りシリーズ優勝を獲得した。

2位にはNo.127「アンティスネコマルトゥデイ」が85周で入り、最終戦でポイントを大きく伸ばし、シリーズ4位に食い込んだ。

3位は2位から6秒遅れでNo.36「JKレーシングユーロートゥデイ」が入り、シリーズ2位の座を守りきった。

以下4位にNo.7「あんじょうトゥデイ」が81Lapで、5位のNo.38「デモリッションエグゼットゥデイ」と6位のNo.97「TR Sトゥデイ」が80Lapで続いた。

毎回多くのエントリーを集めたKNCクラス。今年の混戦ぶりを象徴するような激しい戦いで幕を閉じた。





KNCクラス シリーズ表彰

KNOクラス(軽NAのオープンクラス)

ここまでシリーズ 1 位の No.299「TEAMネコマル」は今回も欠場。これにより 10 ポイント差でシリーズ 2 位に付けている No.223「掛川ボチボチデンナー」は今回 3 位以上を獲ればシリーズ優勝となる。また今回はKNOクラス初参加となる新規格のアルトバンが登場。今後に向けて新規格軽の可能性を探る上でも大きな意味を持つエントリーとなり、多くのチームから注目を浴びた。

予選

予選 1 位となるタイムを叩き出したのはNo.223「リングダリングダリングダトデイ」。1'04.974 をマークして、シリーズ逆転優勝に向けて好グリッドを獲得する。

予選 2 位にはKNCクラスからクラス変更してきた No.90「ガレージトライトゥデイ」が 1'06.132 のタイムで入ってくる。

3 位は今シーズン初参加となる No.260「ペンゾイルトゥデイマクランサ」で 1'06.627 をマーク。

4 位にはシリーズ 3 位に付ける No.211「白須賀会トゥデイ」が 1'12.390 で続く。

新規格軽の No.268「新規格NA HOT - Kアルトバン」は、スパ西浦モーターパーク初走行ということもあり、フリー走行では慣熟に徹し 1'12.495 の 5 位となる。

序盤

1 時間経過時点でのトップは、予選 1 位からスタートの No.223「リングダリングダリングダトデイ」で 26 周をラップする。

続く 2 番手はNo.90「ガレージトライトゥデイ」。25Lap で 1 位をピタリとマークする。

3 位には予選 5 位からスタートの No.268「新規格NA HOT - Kアルトバン」が浮上し、2 位との差はわずか 1 周。

また 4 位の No.211「白須賀会トゥデイ」と 5 位の No.260「ペンゾイルトゥデイマクランサ」は共に 23Lap と、わずか 3 周の中に全チームがひしめき合う序盤となる。



終盤

2 時間経過時点での 1 位は、No.268「新規格NA HOT - Kアルトバン」。65 周で総合 3 番手に付け、大いに注目を浴びる。

2 位の No.223「リンダリンダリンダトデイ」と 3 位の No.260「ペンゾイルトゥデimakランサ」は同一の 63 周で、トップを射程圏内に捉えての走行。

4 位の No.90「ガレージトライトゥデイ」も 62 周とこちらもまた優勝を狙える位置に付ける。

5 位は No.211「白須賀会トゥデイ」で 54 周と表彰台が厳しくなる。



最終結果

終盤までトップを走っていた No.268「新規格NA HOT - Kアルトバン」であったが、最後の義務ピットインで惜しくも 3 位に順位を落とす。最終的に優勝を飾ったのは、No.223「リンダリンダリンダトデイ」で、86 周を走り切り嬉しい逆転シリーズ優勝をものにした。

2 位には No.90「ガレージトライトゥデイ」がいる。このクラス初参加ながらトップとはわずか 1 周差に付け、今後の期待が広がる結果となった。

3 位の No.268「新規格NA HOT - Kアルトバン」はラストに逆転されたものの、トップと 2 周差でフィニッシュした結果は、新規格軽の可能性を大いにアピールしたと言えよう。

以下 4 位に 79 周の No.260「ペンゾイルトゥデimakランサ」、5 位に No.211「白須賀会トゥデイ」と続いた。

来年度はハンディータイムの緩和(廃止)が検討されているKN0クラス。来年はどのような勢力図となるのだろうか。





KNOクラス シリーズ表彰

KTCクラス(軽ターボのクローズドクラス)

7台のエントリーとなったこのクラス。シリーズ優勝の可能性を残すのはNo.14「ガレージシヤマレーシング」と、No.210「ap ZEST with Class」の2チーム。

またこのクラスはシリーズ5位までが表彰対象となるが、表彰圏内を懸けた争いも熾烈。

最後に笑うのはどのチームか。

予選

予選1位のタイムをマークしたのはNo.14「ガレージシヤマアルトバン」。タイムは1 03.850で総合でもポールとなるポジションをGETする。

2位はNo.210「ZEST Sprightアルト」でタイムは1 05.022。逆転優勝を懸けNo.14を視野に捉えるグリッドに付ける。

3位から5位は0.15秒の中に3台がひしめき合う接戦。3位のNo.15「ガレージシヤマTTSセルボ」は1 06.855、4位のNo.21「ZEST Sprightセルボ」は1 06.933、5位のNo.46「カーエナジーワークスアルト」は1 07.063と続き、シリーズ3位を狙うチームが集中する結果となる。

以下、6位に新規格軽のNo.112「白須賀会ワークス」、7位に希少車種のNo.392「Zammers ヴィヴィオ」と続く。

序盤

1時間が経過した時点でのトップは、ポールスタートのNo.14「ガレージシヤマアルトバン」で26周を記録。これを同一周回でNo.210「ZEST Sprightアルト」がピタリとマークする。

3位は20Lapを走行のNo.15「ガレージシヤマTTSセルボ」。これを19LapのNo.21「ZEST Sprightセルボ」と、No.392「Zammers ヴィヴィオ」が追いかける。



シリーズ表彰圏内を狙った No.46「カーエナジーワークスアルト」はマシントラブルで序盤にリタイヤしてしまう。

また、3戦ぶりのエントリーとなった No.112「白須賀会ワークス」はS字で転倒のアクシデントに見舞われ、40分でリタイヤとなる。

終盤

2時間が経過したところではNo.210「ZEST Sprightアルト」がトップに躍り出て、逆転シリーズ優勝に望みをつなぐ。

しかし2位のNo.14「ガレージシヤマアルトバン」は1位と同一周回に付ける。No.14は2ポイント以上獲ればシリーズ優勝が確定なだけに優位な状況には変わらない。

3位にはNo.15「ガレージシヤマTTSセルボ」が61Lapで付ける。続く4位のNo.21「ZEST Sprightセルボ」は59Lap、5位のNo.392「Zammers ヴィヴィオ」は58Lapと、表彰台を懸けた戦いが繰り広げられる。

最終結果

最終的にトップでゴールしたのは、88周を走りきったNo.14「ガレージシヤマアルトバン」。今回1位を獲得することで、シリーズ優勝もGETした。

2位にはトップから遅れること僅か3.8秒で、No.210「ZEST Sprightアルト」がチェッカーを受けた。終盤に1位を走っていた時間帯もあったが、1位にはあと一歩届かず。シリーズは準優勝が確定した。

3位は83LapのNo.15「ガレージシヤマTTSセルボ」。今回の12ポイントで、シリーズ表彰圏外から一気にシリーズ4位に入り込んだ。

4位になったのはNo.21「ZEST Sprightセルボ」で82Lapを記録。終始3位のNo.15を捉えていたが僅かに及ばず。しかしシリーズ3位をGETした。

5位のNo.392「Zammers ヴィヴィオ」は80Lap。表彰台がちらついてしたが、今回もあと僅かでおあずけとなった。来年度は改造範囲が絞られる予定のKTCクラス、どのような顔ぶれとなるのであろうか。





KTCクラス シリーズ表彰

KTCクラス(軽ターボのクローズドクラス)

No.8「チームグローバル」が前戦で早々にシリーズ優勝を決めたため、シリーズポイントの注目は2位争い。前戦終了時点で2位のNo.55「アビリティーガレージ」、3位のNo.192「DXLメビウス」、4位のNo.666「S.C.C.V」とここまでが、2位の可能性を残している。また開幕戦以来となる新規格軽のラパンターボも参戦。1分のマイナスハンディーを味方に、上位に食い込むことが出来るか。

予選

予選1番時計を叩き出したのはNo.55「アビリティーガレージワークス」でタイムは1'04.699をマーク。毎戦安定して上位に位置するが、最終戦で悲願の優勝を飾れるか。

2位にはNo.192「DXLメビウスセルボモード」が1'05.436で入ってくる。前戦では途中までトップを走るが、駆動系のトラブルでリタイヤ。今回は雪辱なるか。

3位はNo.8「チームグローバルカプチーノ」でタイムは1'06.852。周回を追うごとにじわじわと順位を上げてくるこのチームとしては、トップを狙うには十分な位置か。

4位のNo.666「ヴィスコンティMWアルト」は3位とは0.02秒差。シリーズ上位の獲得を十分に狙える位置に付ける。

新規格軽のNo.88「きのカーズレーシングラパン」も5位ながらタイムは1'07.650と、高い戦闘力の片鱗を見せる。

序盤

レース1時間経過時点でのトップは、No.666「ヴィスコンティMWアルト」で24周をラップ。これを同一周回でNo.88「きのカーズレーシングラパン」が追いかける。

続く3位と4位は23週の同一周回。3位にNo.8「チームグローバルカプチーノ」、4位にNo.192「DXLメビウスセルボモード」と、上位4台はほぼ互角の戦い。

予選1位のNo.55「アビリティーガレージワークス」はこの時点で21Lapの5位と、遅れをとってしまう。



終盤

2時間が経過すると、やはりNo.8「チームグローバルカプチーノ」が1位に上がってくる。65周をラップして、2位には2周の差を付ける。続く2位の周回を記録したのはNo.192「DXLメビウスセルボモード」であったが、これと前後したタイミングでクラッシュによりリタイヤとなってしまう。

これにより実質的な2位となったのは、No.666「ヴィスコンティ!MWアルト」。63周を走り逆転優勝に僅かな望みをつなぐ。

3位のNo.88「きのこレーシングラパン」と、4位のNo.55「アビリティーガレージワークス」は、2位から遅れることわずか1周の62周。表彰台を懸けて、ラスト1時間の勝負となる。



最終結果

最終的にトップでチェッカーを受けたのは、No.8「チームグローバルカプチーノ」。総合1位となる88Lapを走行し、シリーズ優勝に花を添えた。

僅差の2位争いを制したのは、新規格軽のNo.88「きのこレーシングラパン」で86Lapを記録。来年度に向けて、新規格軽でも戦えることを証明した大きな準優勝と言えるであろう。

3位のNo.666「ヴィスコンティ!MWアルト」は2位から遅れること僅か17秒。シリーズは4位を獲得する結果となった。

4位はNo.55「アビリティーガレージワークス」で85Lapを周回。序盤に取った遅れがひびき、表彰台にはあとわずか届かなかったが、シリーズでは2位を獲得した。

またリタイヤとなったNo.192「DXLメビウスセルボモード」ではあったが、シリーズでは3位となった。

来年度はKTCクラスの規制強化により、KTCクラスからKTOクラスにチェンジしてくるチームも出てくるものと思われる、KTOクラスではさらなる激戦が見られそうである。





KTOクラス シリーズ表彰